

FRIENDS  
WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

# Voice of friends NEWSLETTER

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー ニュースレター  
ボイス オブ フレンズ vol.35

## contents

- ラオ・フレンズ小児病院スタッフ紹介
- ラオ・フレンズ小児病院プロジェクト進捗報告
- 赤尾和美看護師『今月の出来事』から
- カンボジア／ミャンマー活動報告
- カンボジアとラオスのお正月
- 事務局より





## ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)スタッフ紹介

ラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) プロジェクトの本格始動に合わせ、職員雇用も始まりました。これから共に病院を築いていく仲間たちをご紹介します (名前の下のカッコ内は、普段の呼び名です)。



Ounprason INTACHITH

オウンブラソン・インタチスさん  
(ソンさん)

2006 年、アメリカから生まれ故郷であるラオスに戻った時に、水道や教育、医療施設といった基本的な設備が整備されていない多くの農村地域を目にしました。それからというもの、私はラオスの農村部の人々が基本的な生活が送れるように、取り組んできました。

そのような信念を持っていた私にとって、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーの活動の一員になることは、難しい決断ではありませんでした。この活動によって、ラオスの人々が、より健康で充実した生活を送る手助けができるのです。プロジェクト統括という重役を担うことは大きな挑戦でしたが、今まで自分がやってきた経験を活かしてやってみたいと思いました。今は人々の生活を変えていけるこの仕事を、とても楽しんでます。

私はアメリカ育ちのラオス人として、アメリカで育ったことがどんなに特別であったか気づかされました。十分な教育や高度な医療が受けられ、明るい未来を描くチャンスが与えられていたのですから。私はこの活動を行うことにより、今度は私が、ラオスの人々にお金以上に価値のある知識を分け与えたいと思っています。

私はこのような機会に恵まれてとても幸せです。ラオ・フレンズ小児病院での活動を通して、ルアンパバーンの子どもたちを救うことができると信じています。



Dr. Somchittana SOURALAY

ソンチッタナ・ソーラレイ医師  
(チッタナ医師)

ラオ・フレンズ小児病院の一員となれて、とても嬉しいです。この病院の活動によって、将来、ラオスの子どもたちの死亡率や疾病率が低下できるように、頑張ります。



Phouvana ANOULAKHAM

ポバナ・アノラッカッ  
(ポバナさん)

心のこもった医療を提供するという概念は素晴らしい、その概念のもとでルアンパバーンの子どもたちのために働ける機会を得たことを誇りに思います。小児医療の質の改善のため、技術を磨く機会を得られることも大変嬉しいです。子どもたちが病気になる時、彼らは質の高い医療を受けられることでしょう。また、子どもたちの死亡率を下げることもできるかもしれませんし、ラオス北部の専門的な大学病院 (technical students medical and hospital) として、最新の代表的な病院となることでしょう。



Keo SYSAITHONG

ケウ シサイトン  
(ケウさん)

新しいことを互いに学び合い、地域の人々の健康状態を調査することもできるこのプロジェクトチームの一員として働くことを、心から嬉しく思います。この仕事がとても好きです。



Viyakone VIYAKONE

ヴィレイコン・ヴィヤコンさん  
(ブイさん)

私は、ルアンパバーンの子どもたちを救うことができるこの活動を知って、とても興味を持ちました。思い切って今まで働いていたホテルを辞めて、今年の 1 月から働き始めました。この仕事は新しい知識が身に付き、英語を使う機会も多いので、とても勉強になります。皆が新しいメンバーですが、どんな仕事でも全員で協力し合っており、とてもいい関係が築けています。また、チームとしての仕事の仕方など色々なアドバイスをくれる素敵なボスもいます。私たちは家族のようになって、どんな問題でも皆で解決できると思います。

私は、このプロジェクトのチームの一員として、今後も努力をしていきます。もっと知識を身に付け、やったことのないことにもチャレンジしたいです。また、英語力もさらに磨いていきたいです。



Somlith LATHANASAK

ソムリース・ラッタナサック  
(ソムリースさん)

FWAB のチームの一員として迎えていただき、心から感謝しています。スタッフとしてのこの 3 カ月間、仕事をするのがとても楽しく、幸せに感じています。全ての業務が初めてのことで、仕事を理解するのは難しかったです。私はこれまで働いたことがなく、同僚から新しいことを沢山学びました。この仕事がとても好きです。精一杯頑張ります。



Somsangum CHANDARUCK

ソムサグイン・チャンダラック  
(ピークさん)

ラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) で働くことをとても嬉しく思います。困っている人を手助けすること、子どもたちのお世話をすることはとても好きです。今ここで働いているスタッフ

はみんな初対面ですが、チームとしてとても仲がいいです。共に成長し、お互いに学び合っていきたいと思っています。

初めての業務ばかりなので仕事は難しいですが、とてもやりがいがありますし、新しいことを学ぶいい機会だと感じています。何もないところから始まり、1 つずつ積み重ねているところです。仕事で問題や課題に直面した時はいつも、子どもたちや建郎さんの想いに動かされ、勇気づけられます。

私はいつも、「彼らにできることは私にもできる。そして、他人を愛することは自分自身を愛することである」と、自分に言い聞かせています。このチームの一員として一生懸命働いていきます。どうぞよろしくお願いします。



Phonesavanh PHONGSAVATH

フオネサヴァン・フォンサヴァスさん  
(ノルムさん)

私は、子どもたちを助けられる活動の一員になれたことを、とても嬉しく思っています。また、仲間と共に新しい経験ができる事も、とても誇りに思っています。村に行って健康基礎調査を行った時に、子どもたちが笑顔で協力してくれたことがとても嬉しかったです。

子どもに関わる仕事に就くのは初めての経験ですが、これからも一生懸命頑張ります。



Soubandith SOULIYA

ソーバンディス・ソーリヤさん  
(ラさん)

この病院での仕事は初めての経験ばかりで、もっと学びたいという気持ちにさせてくれます。ラオスのルアンパバーンの子どもたちや妊婦さんの助けとなる仕事ができとても幸せですし、誇りに思っています。優秀なスタッフになるように、さらに努力していきます。



## ベースライン・メディカル・サーベイ (健康基礎調査)が行われました

国際協力場でよく耳にする“ベースライン・サーベイ”という言葉。これは、新しいプロジェクトを始めるにあたり、現状を把握して方向性を決め、かつ、後にプロジェクトの成果を評価するために、基点となる資料やデータを集める調査を意味します。

ラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) でも、約 3 ヶ月の時間をかけ、活動地域でのベースライン・メディカル・サーベイを行いました。身体検査や血液検査に加え、医療に関わる現状を聞き取り調査することで実態を分

析し、把握していきます。現在、第 1 フェーズを無事に終了。地域を変えて同じ調査を行う第 2 フェーズが、もうすぐ始まる予定です。



## 病院建築が進んでいます

前号でお知らせした通り、ラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) の建築が始まりました。工事が開始された頃は、敷地に大きな穴がいくつも掘られた状態でしたが、時間の経過とともに基礎ができ、柱が立ち、屋根がかかり……と、着実に完成形へと近づいています。東南アジアには季節風によってもたらされる雨期と乾期があり、ラオスでは 6～10 月頃が雨期。これからは雨の影響で思うように工事ははかどらないことも予想され、急ピッチで作業が進められています。



## スタッフの英語教育が始まりました

建築の進捗を目にするたび、開院に向けてスタッフの意気も揚がります。建築現場の職人さん同様、病院の新スタッフたちも、やる気十分。始まったばかりで、こなさなければならぬ準備作業が山とある中、その山を切り崩すべく、果敢に仕事に取り組んでいます。

また、英語教育もスタートしました。アンコール小児病院と同様、院内では英語がスタッフの公用語となるため、スタッフには能力別に英語クラスを受講してもらっています。







健康教育デビューの地元スタッフ

村の人々が手の届かない医療を身近に感じてもらふこと、疾病の予防への意識を高めること、そのきっかけを提供していくことが健康教育活動の趣旨ですが、もうひとつの目的は、地元のスタッフを教育し、提供する医療レベルの向上を目指すことです。小児の専門医師がとて少なく、国内でも小児医療の手ほどきを受けるチャンスはなかなかありません。もちろん、知識は持っているのですが、それが十分に発揮されず、見逃されてしまっている疾患予備軍や、放置されている疾患もあります。痛みのある子どもの痛みを取ることに目は向いても、痛みや苦痛を訴えていない子どもは健康と判断されてしまっている例が多く見受けられました。特に成長や発達に関しては、全くと言ってよいほど目が向けられていなかったようです。これらは今後の医療指導の課題となっていくでしょう。栄養教育に関しては「専門家を呼んでレクチャーをしてもらう」と現地スタッフは言っていたのですが、どこかの先生が来るよりは、既に人間関係が構築されている現地スタッフが自らすることの方が教育の効果はずっと高いはずで。ということで、教材や指導の仕方を伝授し、早速、教育デビュー!「できるかな…」緊張気味でしたが、終わった後には「Good!!!」と気持ちよさそうでした。

村の人々が手の届かない医療を身近に感じてもらふこと、疾病の予防への意識を高めること、そのきっかけを提供していくことが健康教育活動の趣旨ですが、もうひとつ

2名(日本人1名、カンボジア人1名)のボランティア医師も参加して指導に当たってくれました。今回は成長と発達に焦点を当て、レクチャーと実際に患者さんを診察しながら、小児診療の実際、記録の仕方、処方の仕方などを指導しました。指導を受ける前は、「どんなことがわからない?」と聞くと「特に問題はないのですが…」と言っていた現地医療スタッフ。ところが指導を受けてみると、色々気付かされたことがあったようです。カンボジアから参加した医師は「自分たちの若い頃を見ているようだ。『できる』と思い込んでいるんだ。そして、機械のように診察と処方を繰り返してしまう。大事なところを見逃してしまうことに気が付かないんだ。」と言っていました。まさに、その通りだなと思います。実際に自分が経験したことがあるので、そのカンボジア人医師の言葉は重みがありますね。現地のスタッフのやる気も満々でした。新しいことに気が付き「パッ!」と目が覚めたような表情をしていました。いいですね! 今後も医療ボランティアのご協力を得ながら、このモバイルクリニックをより良いものにしていきたいです。〈ミャンマー8月の出来事より〉



▲日本からのボランティア医師によるレクチャーの様子



▲カンボジアからのボランティア医師によるベッドサイド指導の様子



## 赤尾和美看護師の 「今月の出来事」から



村では、一度は休止となったこのモバイルクリニックの再開をとて喜んでいました。支援団体は変わったけれど、継続することができることをこうしてバナーに記してくれていました。こうした一つ一つのことが、村と地元スタッフの団結力を感じさせてくれます。誰かに言われてやっているというのではない、全ての人が参加して成功を目指している様子がよく伝わってきます。最初のモバイルクリニックは、開けてびっくり「あれがない!」「順番が違う!」「なんでこうなってんの?」という中でバタバタでしたが、まずまずの成果があったと思います。短い期間のプロジェクトを次へのステップとするためには、このチャンスを有効に使わなければなりません。2回目も気を抜かずにエイエイオー!



▲毎回かわいい子供たちに出会います。そして、お友だちになります。それから、いっぱい元気をもらいます。感謝です

▼村で用意してくれたバナー



HIV クリニックでは、医師、看護師、ボランティアさんが、毎日来る患者さんの対応に追われています。日々増えている新しい感染症者に段々と手が足りなくなっていると話していました。だったら検査の数字はうなぎ上りに ..... と思ったら、減っている。なぜ？ 答えは、「検査キットがなくて検査をしたくてもできない」のだそうです。そしてさらに、陽性と判明した人たちに行う身体の抵抗力を判断するための検査も、試薬の不足により実施されていない状況だとわかりました。また、小児の患者さんでは、家族の認識、モチベーションを高めるのがとても大変なのだそうです。これはどこも同じですね。日々の生活に追われていて、いつも同じ人が病院へ付き添いに来るということすらとても難しいのです。それができるような環境、状況を作るにはどうするかを追求しな

ければならないけど、簡単じゃないんです。色んな山があるんです。その山が少しでも低くなるように、この HIV チームと一緒に頑張ります！〈ラオス 9～10 月の出来事より〉



頑張るウーマンパワー！左からメディカルアシスタント2名とボランティアさん

ルアンパバーンで第 1 回チャリティーハーフマラソンが行われました。丁度、私も現地にいたので、7 キロコースに飛び入り参加してしまいました！各国からの参加者は 400～500 名でしたが、ローカルの参加者がとても多く、また沿道では、子どもたちや地元の店舗からの応援があり、“地元密着感”がたっぷりのほのほのマラソンイベントでした。いい感じですよ。今回は子どもの支援をする国際 NPO のためのチャリティーでした。来年はラオ・フレンズ小児病院にもスタッフがいるので、みんなで参加ですね！ん？来年あるのかな？〈ラオス 9～10 月の出来事より〉

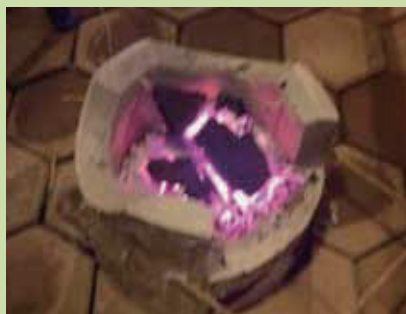


◀沿道で応援してくれた Boys and Girls!



▶参加者はスタート地点で準備体操

▶命の火鉢



今回のラオスミニ情報は、“意外に寒いラオス”です。単に寒いではなく、“すごく寒い”です。朝は白い息が出るくらいで、

手もかじかむ。先日は朝 5℃ を記録しました。家のづくりも日本のように断熱仕様になっていませんから、外気温と変わらないのです。ダウンジャケットを着て寝ていました。午後もし日が陰ってくると一気に気温が下がってきますので、ブルブルです。ヒーターなどの暖房器具は一般的ではなく、もっぱら火鉢。それも室婦負（←ですか？）では使えないので、日中も毛糸の温かなひざ掛けなしではいられません。

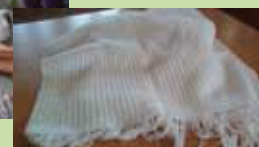
町の古着屋さんには、厚手のジャケットの山に人だかりができていました。

こういう時にはお風呂が恋しいですが、ないものねだりはいかんですね。村の中では水しかない家庭もいっぱいあるのだし、さらに山の村では、気温はもっと低いはずですね。ラオスの寒さを感じて“生きているな～”としみじみ感じる今日この頃です。〈ラオス 11～12 月の出来事より〉



▼こんな温かひざ掛けが必須です！

▲古着屋さんの人だかり







## アンコール小児病院が リニューアルオープンしました

開院から15年経ったアンコール小児病院では、時間の経過とともに変化したスタッフや患者さんのニーズに合わせ、昨年より大規模なリフォーム&増築工事が行われていましたが、ついに完成。4月28日、カンボジア保健省大臣のマン・ブン・ヘン氏、シェムリアップ州副知事のサン・リハ氏をはじめ、100人を超える地元の子どもたちが出席し、新外来オープン式典が行われました。

このリフォームにより、より高度で機能的な診療ができるようになります。また、支援者の皆さまにはなじみ深いビジターセンターも、リニューアルオープンしました。新生アンコール小児病院を、どうぞよろしくお願いいたします。



## カンボジアの日本大使館から 助成金が贈られました

在カンボジア日本国大使館より助成金（草の根基金）が贈られ、隈丸優次大使がアンコール小児病院を訪問されました。

日本外務省の草の根基金は、国同士の協力体制を深めることはもちろん、地域組織を通して、より直接的に市民への支援を行うことを目的としています。アンコール小児病院が、草の根基金運営先として適切な組織と認められたのは、とても光栄なことです。

「今後、よりいっそう協力し合い、地域の発展のために働いていきましょう」と、隈丸大使からお言葉をいただきました。



## ミャンマーでの支援活動を継続します

ミャンマーのNGO／ゴールドミャンマーが行う小児を対象としたモバイルクリニック（移動診療）への支援は、予定していた2013年7月～2014年1月までを、無事に終了することができました。それに伴い、活動の成果や課題等を総括。プロジェクトの意義や成果を実感できる結果を得たと自負しています。

この結果を踏まえ、支援の継続を提案したところ、フレンズ JAPAN の理事会と総会で承認を得ることができました。よって、今年度も9ヶ月の期間で、ミャンマーでのモバイルクリニック（移動診療）をバックアップします。資金面での支援もありますが、それ以上に、ゴールドミャンマー主導のプロジェクトに対し、より効率的、効果的な活動になるようアドバイスすることが大事な役割と考えています。

経済発展著しいミャンマーですが、その分、都市部と農村部、富裕層と貧困層の格差が広がっており、それと比例して

教育格差や医療格差も生じているのが現状です。経済的な問題だけでなく、道路や交通の整備がないといったインフラの問題もあり、農村部の子どもたちは、病気になっても医療機関を受診するのが容易ではありません。それ以前に、子どもが病気（栄養失調など）にかかっていると認識できない親も多く見受けられました。

農村部には、医療チームが足を運ぶモバイルクリニック（移動診療）を心待ちにしている人々が大勢います。待ち時間を利用した栄養教育も合わせて行い、少しでも医療環境の改善につなげていければと思っています。



## 中山身語正宗のお同行の皆さま

中山身語正宗は、佐賀県の瀧光徳寺を大本山とし、全国に末寺院等を多く持つ仏教の宗団です。フレンズとのご縁は、1997年、広島にある法瀧寺の故・齋藤法明住職との出会いから始まります。フレンズの活動にご賛同いただき、アンコール小児病院の開院にご尽力くださいました。特に、2003年に医療教育センターをオープンするにあたっては、多大なるご支援をいただいています。

この医療教育センターは、医師や看護師をはじめとするカンボジア人医療従事者の育成を目的に設置されたものです。ここで行われる教育プログラムに対して、大本山瀧光徳寺からもご支援いただけることとなり、2003年から2013年までの10年間に渡り、感謝運動基金を通じて支えていただきました。

カンボジアでは、ポル・ポト時代に多くの医療従事者を失っており、人材育成は必須かつ急務でした。また、アンコール小児病院を将来自立させる目標のためにも、現地スタッフを育てるのはとても重要で、医療教育はフレンズの活動の大きな柱となっています。そうした事情にご理解と共感をいただき、長期に渡る支援を続けてくださったことに、心から感謝いたします。

このたび、ラオスでの新プロジェクトが始動するにあたって、すぐに応援の声をかけてくださいました。病院建築資金の支援のほか、複数年に渡る活動資金の支援のお申し出があったのです。たいへん心強く、ありがたいお申し出だったことは言うに及びません。

こうした支援活動に積極的に取り組み、あたたかいご理解とご協力をくださる中山身語正宗のお同行の皆さま、いつもありがとうございます。皆さまのお気持ちが大きな力となり、プロジェクトを支えてくださっています。今後とも、よろしくお願いいたします。



アジアの子どもたちを支援する  
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN  
に皆さまのご協力をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

- 一般賛助会員 : 年会費 1口 6,000円
- 学生賛助会員 : 年会費 1口 3,000円
- 一般寄付 : 金額・回数はご自由です

支援者には年2回発行のニュースレターをお送りするほか、報告会やイベントの案内などをお届けします。

- 正会員 : 年会費 1口 12,000円  
団体・法人 30,000円

正会員には、ニュースレターや報告会・イベントの案内などをお送りするほか、年1回の定時総会において、団体の意思決定について参加していただけます（委任状の提出も可能です）。

※正会員は、当法人が定める入会申込書を別途ご提出ください。

ご寄付を希望される方には、専用の郵便口座の振込用紙をお送りしております。ホームページのフォーム、もしくはお電話でご請求ください。郵便局や銀行に備え付けの用紙を使っていただいてもかまいません。

### ● 郵便口座

加入者名：特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN  
振替番号：00160-0-546217

### ● 銀行口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行 中目黒支店  
口座番号：普通預金 0420041  
口座名：トクヒ) フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー  
ジャパン

### ● クレジット決済

ご自宅からインターネットを通じ、クレジットカードでご寄付ができます。フレンズJAPANのホームページ [www.fwab.jp](http://www.fwab.jp) にアクセスし、手順に沿ってお手続きください。

※ご寄付には寄付金控除の可能な領収証を発行いたします。

※銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より郵便振替で直接送金される場合、お手数ですが必ず、お名前、郵便番号、ご住所をお知らせください。

※アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を事務局までお知らせください。（振込用紙使用の場合はカンボジア寄付とご記入ください）



## カンボジアとラオスのお正月

日本をはじめ多くの国では新年は1月1日ですが、これは新暦(グレゴリオ暦)を使用しているため。しかし世界には様々な暦が存在しますから、国により新年の時期も異なります。中国文化圏のお正月が旧暦で祝われることは有名ですね。

カンボジアやラオスなどメコン川流域の国々の多くは4月の中旬に新年を迎えます。この時期は1年で最も熱さが厳しいせい、お正月＝水かけ祭という風習がありますが、国により、多少の違いはあるようです。

たとえば、カンボジアでは、どの家も派手な正月飾りを飾り、食べて、飲んで、歌って……と、賑やかに3日を過ごします。水をかけ合う水かけ祭は、シェムリアップなどの観光地では禁止となり、近年は行われる地域が少なくなりました。

ラオスは、カンボジアに比べるとおとなしい印象を受

けます。派手な飾りはありません。が、水かけ祭は激しく、外を歩けば濡れるのが当たり前なので、携帯電話など決して濡らしたくない物は、ビニールやプラスチックケースに入れて持ち歩くのだそうです。水かけに大量の水を消費するため、生活用水を確保するために、どの家庭でも大きな水瓶を正月用に準備しなくてはならないほどだとか。

お正月文化も、それぞれですね。

▶ミス・ルアンパバーンのパレードはお正月の大イベント。



◀ラオスは多民族国家。少数民族ごとのパレードも。

## ラオスの仮オフィスができました

まずはオフィスがなければ始まらない……と考えていたところ、ルアンパバーン県保健局からお部屋を提供していただけることになり、スタッフの活動拠点ができました。ということで、さっそく模様替えです。掃除をし、部屋をフレンズカラーにペイント。デスクや備品も揃え、仮ではあるけれど、現況では十分過ぎるほどのお城が完成しました!

このオフィスで、新しいスタッフたちが、ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)の開院に向けて頑張っています。皆さまの変わらぬご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。



事務局より

  
**FRIENDS**  
WITHOUT A BORDER

[www.fwab.jp](http://www.fwab.jp)

認定NPO法人  
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN  
〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-7-5-203  
Tel / Fax : 03-6421-7903  
[friends@fwab.jp](mailto:friends@fwab.jp)

Friends Without A Border  
1123 Broadway, Suite 1210  
New York, NY 10010 USA  
Tel : 212-691-0909  
Fax : 212-337-8052

Lao Friends Hospital for  
Children  
c/o Luang Prabang Provincial  
Health Department,  
Luang Prabang, Lao PDR